

## 井上明夫新聞～日田市議会だより～



今年は南アフリカでサッカーW杯が開催され、前評判はもうひとつだった日本代表チームが予想以上の活躍をして日本中がおおいに盛り上がりました。

一方、7月11日が投票日だった参議院議員選挙では、昨年夏の政権交代以来の民主党の迷走に対して有権者のきびしい審判が下され、その結果、衆議院と参議院で与党と野党の数が逆転する「ねじれ現象」が起き、国政は予断を許さない状況となっています。

不況が長引く中、政治が停滞するのが懸念されます。

一地方議員である私としては、これまで以上に市民の皆さんの声に耳をかたむけて頑張っていきます！！

### 夜明地区に不況に強い「もやし」の生産工場進出

夜明上町（国道211号線と九州自動車道が交差する場所の近く）に立地することが決まっている「九州ジージーシー株式会社日田工場」の地鎮祭が6月30日に行われました。

7月に着工し、来年3月の操業予定で、用地面積は9998平方メートル、建築面積約6000平方メートルの鉄筋2階建てで、投資額は約24億円です。

雇用計画は当初約40人で、新卒採用、中途採用などあるもようです。

生産量は当初1日当たり40トンを目指し、最終的な目標は、1日当たり60～70トンで、そのときには年間の取扱額が22億円となり、従業員も80人となる予定です。

もやし生産に関してはジージーシー株式会社は大手であり、やがてこの工場生産されたもやしは西日本全域の家庭の食卓に届くこととなります。

もやしを作るためには水温19℃位の地下水が必要で、水量や水質も合わせたところの条件の整った場所を見つけるのに苦労したそうです。

まさに「水郷ひた」の産物にふさわしい「もやし」の生産工場の進出により、日田市の景気回復にひとすじの光明がさすことを期待したいと思います。

## 日田市の22年度の国民健康保険税額が大幅上昇・・・

日田市の国民健康保険税は22年度の見直しで、平均17.7%上昇することになりました。日田市民のうちの3割の人が国保の加入者であり、不況の中の負担の増加は避けたいところでしたが、以下のような経緯での決定となりました。

- ① 平成20年度の後期高齢者医療制度の導入に伴い、「前期高齢者交付金」が国から地方自治体に交付された。

〈前期高齢者交付金〉 65～74歳の「前期高齢者」の医療費負担を各保険制度間で調整する仕組み。交付金は、各自治体が前期高齢者にかかる医療費を見積もって申請すると、交付される。見積もって交付された額が、実際に前期高齢者にかかった医療費より多  
いと、2年後の交付金が減額される。少ないと、追加交付を受ける。

- ② 制度の導入に当り、国は事前にデータを収集するために、平成19年度に各自治体に18年度のデータを出させて、交付金の算定のもとになる65～74歳の医療費を見積もり、20年度に概算の前期高齢者交付金を各自治体に交付した。
- ③ 日田市は平成20年度に約20億円の交付を受け、金額に余裕があったので、それを21年度の（日田市が徴収する）国保税引き下げの財源に使った。
- ④ しかし、20年度に交付された20億円は過大であったため、22年度の交付金は4億6970万円減額精算された。
- ⑤ その上、21年度の日田市の国保会計の決算剰余金（繰越金）も不況の影響で、前年比2億4500万円の減額となった。
- ⑥ 日田市としては22年度の国保税の値上げを抑えるために、国保特別会計の基金約6億円のうち5億円を税率軽減の財源に当てることとしたが、それでも不足するため国民健康保険税額を値上げすることにした。値上げ幅は収入によって異なるが、平均すると1人当り年額88,897円で、昨年度に比べて年額13,348円の増額（上昇率17.7%）となる。
- ⑦ 6月議会では基金約6億円全額を使って、値上げ幅を年額5,000円引き下げる修正案も提出されたが、基金1億円は不測の事態への対応の原資として必要であり、また、23年度以降の国保会計の運営も考えて、基金5億円を取り崩して1億円を残すのが妥当と判断した議員が多数であったため、原案どおりに可決した。

今後ますます逼迫してくると見られる国保会計のあり方については、国による抜本的な見直しが望まれます。

☆☆

♪ウェブサイト「井上明夫」で検索することもできます♪ 携帯→

[連絡先] 井上明夫 TEL.0973-28-2750 / 携帯 090-87666807

